

アマダイ通信NO. 50

(Tile fish network letter)

05年芙蓉咲く

知人・友人各位

残暑が続き、巷ではホットな選挙戦が繰り広げられていますが、暦が変わって9月。少しは凌ぎやすくなり、皆さんほっとされていることと思います。節目の50号を送ります。記念のイベントも企画しました。ご案内致します。宜しくお願い致します。

◎主人は誤診ではないかと言ってるんですが？！

ご主人の代理で？よく東大三鷹クラブの講演会に参加してくれる三鷹寮同期の、羽村の駅前で胃腸科医院を営む山川君のカミサンが、電話の向こうで言う。主人は干場さんの癌は誤診ではないかと言ってるんですが？小平の公立昭和病院で大腸癌と言われた時に、同じく三鷹寮同期で大腸がんの権威の澤田群馬県立癌センター院長の他に、山川君にもデータを持参して相談しているので、良く知っている筈。彼の知験からはステージⅢbの大腸がん患者が、術後2年でピンピンして国内外を飛び回り、毎晩大酒を喰らい、シーズンには毎週日帰りスキーを楽しみ、たまには下手なゴルフもして色艶よく太っているのが不思議なのか？7月の三鷹クラブの講演会で元主治医で寮の大先輩、三楽病院の河野名誉院長に話すと、誤診はないよ、僕が診たんだから、と全否定。

岩波新書の「胃がんと大腸がん」には「大腸がんステージⅢb・・・ほとんど治癒する見込みなし」と書かれているくらいだから、幸運な例外？なのかも知れないが、この二年半元気に生きている。それも隔月に1回問診を受け、そんなの効きやしないよと言う人もいるクラシックな抗がん剤、5FUを朝晩一錠飲み、四半期に1回血液検査し、半年に1回精密検査するだけだ。癌を宣告され、ましてリンパ腺にも転移しているとなると、他に転移している可能性も高い。食事療法だ、アガリクスだと、あらゆる手立てを尽くし、金もかけて癌と闘うのが一般的らしいが、それらしいことは何もしていない。

メナード化粧品の重役もしている三鷹寮の後輩の勝部君からいただいた霊芝と、JRの長谷川先輩からこれいいよといただいたアガリクスは飲み終え、学生運動の先輩の魚谷さんのカミさんが試しにと営業用のサンプル？を置いて行ったキングハナビラ茸を思い出したように飲んでいただけだ。能代高校同期で東北大の医学部出身の、秋田市仲通病院の放射線科の河田医師が、地中海ヨーグルトがいいよというのでカミサンに作ってもらい、蜂蜜と黄な粉をかけて毎朝食べていたのだが、元気過ぎるのに愛想を尽かしたか、今ではスーパーで買って来たアロエのヨーグルトとLG21が冷蔵庫に入っているだけだ。エノキ茸の味噌汁も間遠になった。

◎酔うが如くに生き、夢見るが如く死ぬ！

今や癌闘病？記の様相も帯びようになったアマダイ通信を、3千部近く刷ってバラ撒いているので、色々情報も寄せられる。大分前に相談を受けたSさんの弟さんは東大病院から退院を通告され、癌センターに戻って抗がん剤の治療を受けたのだが、余命二ヶ月といわれた通りだった。副作用も激しく、苦しんでやせ衰えて亡くなったので、無理な闘病はさせずに、残された二ヶ月の命を思い通りに使わせてやればよかった。やりたいこともあったのにと、街でバッタリ会ったSさんに嘆かれる。



若い時の交通事故の輸血がもとの肝炎から肝臓がんになり、転移した膵臓がんで亡くなった学生運動の先輩Hさんも、豪放な物言いに似ず繊細な神経の持ち主で、死神の手を逃れようと手立ての限りを尽くしたようだ。従業員十数人の会社を経営していたが、癌宣告を受けた後は殆ど仕事はほっぽり出し、あらゆる療法を試みた。が、かけた労力とお金の割には半年と言われた余命を数ヶ月伸ばすことができただけで、後には多額の負債が残されたようだ。

学生時代、アルバイトサークルの東大学力増進会で一緒に、現在はフリーライターとしてプレジデントなどで活躍、著作も多いK君も、と言っても🐟の学生時代は11年もあるのでずっと若いのだが、大腸がんをやったという。🐟癌の上行結腸より下のS状結腸で、初期なので開腹はせず、お腹に開けた三箇所穴から内視鏡を差込み患部を切除する腹腔鏡手術で済み、術後は抗がん剤も飲んでいないという。7月の能代高校在京同期会で杯を交わしたUさんも、大腸癌で7年前に手術したとのこと。術後5年で何もなければ完治と言われるので、無事癌患者卒業だ。

カミサンの友人の旦那さんは肺がんを手術。元気が食事には胚芽米で、東に名医がいると聞けば東に、西に効くサプリメントがあれば西に走り、闘病が生活そのもの、お金も家一軒建つくらい使ったという。🐟は随分ローコストの闘病生活どころか、ソニー生命から一千万円の生前給付を受け黒字で、闘病資金に多少の余裕もある。が、癌を目の敵にしてかかりっきりになる、癌に残りの命を丸ごと捧げる余生は避けたい。20代から癌細胞は誰の身体にも住みつく。ゼロにはできない。体力低下やストレス亢進で免疫力が衰えた時、正常細胞を打ち破り急増殖する。専門医も不思議がるくらい例外的に生き延びているとしたら、天与の命、癌と共生、生きたいように生きようと思う。酔生夢死！人はいずれ死ぬのだから、生きることは死ぬこと、生は死を生きること。



◎再びバルト海で泳ぎ、からたち日記を合唱！

お盆休みはパック旅行でポーランドとバルト三国に足を伸ばす。この辺りのツアーになると、仲間は海外旅行のベテランばかり。総勢23人のメンバーに、見慣れた人が二人もいる。定年間近かの横浜の小学校の先生の世古口さんは、エジプト、チェコ・ハンガリーと二回も一緒だった。来年からこんな旅行代金の高い時に来ることないじゃない、毎月海外旅行できるじゃないと皆から祝福？されている。大学の不動産学部で建築学を講じる石塚教授は、元東北地方整備局の営繕部長の時に🐟が営業にお伺いした方だ。今回も街並みの研究が目的だと、市街図を手にチェックを怠らない。

ワルシャワでは、加藤登紀子さん一族が経営する表参道のスナガリーでよく飲む地ウオッカ、ズブロッカを飲む。地ビールと交互に口に運ぶが、冷やし方が足りないか、スナガリーで飲む方が美味しい。食べ物も食材の種類、調理法の多彩さ、品数の多さなど和食がいい。朝食はビュッフェ形式で種類が多いが、昼と夜はスープとサラダにメインディッシュがドーンと皿の真ん中に構え、付け合せのポテトなど脇に山盛。メインディッシュは肉が多く、甘いデザートがつく。一品の量は少なくていいから、前菜がもつつき、肉と魚とメインディッシュが二皿つかないか？安いツアーだからか？ 沢山食べたら、消化して排泄しなければならぬが、中々トイレが見つからない。男の便器は高く伸び上がらないとオシッコできない時がある。背が高いから腸も長く、長時間我慢できるのか？日本ではパチンコ屋のトイレに駆け込む時があるが、パチンコを輸出するか？



オスロのフィヨルドとペテルブルグのバルト海で泳いだことがあるので、今度も海パンを持参する。ワルシャワのホテルのプールでも泳ぐが、やはり海で泳ぎたい。最後の宿泊地、10泊目のエストニアの首都タリンはバルト海沿いだ。一人ツアーを離れ、ホテルからタクシーを20分ほど走らせる。80クローンで700円ほど。沢山の人が遠浅の砂浜で日光浴したり、ビーチバレーに興じたり。泳いでいる人は少ない。ロシアで泳いだ時は人影はまばらだったが、綺麗な娘が数人トップレスで日光浴、得意の？富士フィルム製ポラロイドで撮ってやりツーショットしたが、この娘達は行儀よく水着の胸布もあてている。そして経産の熟女がトドのように寝転がる。意を決し冷たい海に入るも、一人では意気が上がらない。

ツアーメンバーにカップルが多いと、食事の時にどの席に座るかなど気を使う時があるが、今回は一人参加が半分ほどと多い。そのせいもあってか、段々気が合って盛り上がる。ワルシャワでは郊外のショパンの生家の客間でピアノ演奏を楽しむ。カワイのピアノで音楽大学の先生が我々のためにショパンを弾いてくれる。余りクラシックに縁のないだが、先生のCDを買う。バルト三国も音楽が盛んで、冷戦崩壊後、ロシアからの独立運動でも歌が大きな役割を果たした。タリンでの最後の晩餐ではフォークロアを楽しむ。帰りのバスでフォークロアも民謡、シャンソンは演歌、やっぱり和食と演歌と大和撫子だ！とのの掛け声で？！からたち日記や青い山脈を大合唱、白夜も更け行く。

◎ユーロ加盟で生活が苦しくなる！

ワルシャワの町は第二次大戦末期、ナチス占領軍に対する市民の蜂起と抵抗運動、ナチスの徹底した弾圧の結果、市街の85%が破壊された。戦後、内外のポーランド人の寄金と労働奉仕で古い街並みを復元。他の西欧諸国の都市と同じように落ち着いた美しい佇まいだ。5月の連休に行ったルーマニアなどと較べ車も新しく綺麗だ。04年にEUに加盟、一人当たりGDP年間4千ドルと、旧東欧諸国では豊かな方だ。

ポーランドの京都、クラクフへ行く途中の農村地帯は小麦、ライ麦、大麦、オート麦の春蒔き、夏蒔き、秋蒔きと二毛作、三毛作が可能な豊かな穀倉地帯だ。日本より少し小さいくらいの国土に三分の一ほどの人口、ゆったりした敷地の農家は比較的大きく、EU未加盟のルーマニアに較べると豊かだが、屋根はアスファルトルーフィングのシングル葺きやトタン屋根、スレートが多く、瓦葺きが少ないところにチグハグさがある。一昨年夏ウィーンからブダペストに抜けた時、ハンガリーに入ると屋外広告が少なく、家もくすんだ感じで寂しく感じたが、ユーロ加入済みのハンガリーの方が上だ。

ワルシャワからひた走ると広大な平原に農地が広がる。農業地帯の真ん中で国境を越えリトアニアに入ると、一回り小振りな木造のくたびれた感じの農家が多い。バルト三カ国は生活レベルは同じくらいだが、ポーランドに較べると貧しい。幹線道路は舗装されているが、その先の道路は舗装されていない。勤労者の平均月収は2万5千円から3万円ほど、貧富の差が激しく都市と農村の差も大きいので、物価が日本の数分の一でも給料だけでは食べて行けず、時間外や休日のアルバイトが普通のようなのだ。

大企業はユーロに加盟すればビジネスチャンスが増えると歓迎しているが、勤労者は物価が上がると反対が多い。高等教育を受けた者は出稼ぎに行ってしまうので、産業の高度化も進まず農業の比重が高いと言う。西欧も東欧も労働者の間にユーロ参加、EUの拡大・深化に反対する者が多く、企業家に賛成が多いという。



◎ アウシュビッツ〜カウナス、歴史に学ぶのか、歴史を繰り返すのか？

ワルシャワ大学の日本語科出身、日本人並みに小柄でスタイルがよい現地ガイドのマーガレットは、日本人男性と結婚している一児の母だ。彼女は、イスラエルからユダヤ人の若者が大挙してやって来ては街やホテルで大騒ぎ、乱暴、狼藉を働き、自分達は被害者だと居直ると非難。ナチスの犠牲になったのはユダヤ人だけではないのに、国のトップもユダヤ人が多いので、過去を謝罪するだけでキチンと対応しないと嘆く。

ユダヤ人を含め28カ国百万人が虐殺されたというアウシュビッツを、日本人唯一の公式ガイド中谷さんの案内で見学。今更ながら人間のおぞましさを痛感する。国民の三分の一の支持しかないナチスが他党を巻き込み連立政権を樹立。権力を握ったヒトラーはナチスの全体主義政策を国の方針として国民を弾圧、侵略戦争に駆り出し、外には排外主義・他民族抑圧を強行した。少数の支持しか得られないヒトラーが権力を握り、ナチスの政策を国家の方針として実行した時、自らの生活の安穩と引き換えに百万人の人間に直接手を下して虐殺したのは、普通の市民であった。暖かい部屋で家族と食卓を囲んで夕食を取り、子供と風呂に入り、愛する妻と身一つにし、翌朝行ってらっしゃいと収容所に出勤した市民が、馬小屋のような収容室から別れ別れに夫婦、子供を引き出し、身ぐるみ剥いでガス室へと送り込み、金歯や銀歯を抜き取り、残された髪の毛で毛布を編んだ。敷地の中にはドイツ以外の他のヨーロッパ諸国もお金を出して記念館を作り、被害者としてだけでなく、加害者でもあったことの自戒を込めた展示をしている。

リトアニアのカウナスでは大戦初期に杉原地畝領事代理が、シベリア経由でアメリカ大陸に逃れるしか生き残る可能性がなかったユダヤ人に、本国の指示に背いて独断でビザを発行した旧領事館も見学する。次の任地に移動するまで半月間、昼夜を分かたず発行したビザは3千通。救われたユダヤ人は6千人という。戦後イスラエルは日本外務省を追放され、行方が分からなかった杉原を探し出し感謝、表彰する。

だが、なぜユダヤ人がアラブの地からアラブ人を追い出し、分離壁を巡らせ、彼らを狭い所に押し込めるのか？自分達がナチスにされたと同じことをアラブでするのか？杉原地畝に救われたユダヤ人の中には建国後のイスラエルで宗教大臣を勤め、中心になって杉原を探し出した人物もいる。人間は歴史に学ぶことのできる動物なのか？ただ歴史を繰り返すだけなのか？

◎羽田—関空—北京—ウラムチ、日に3回空を飛ぶ

7月半ば、駒場の中国語クラスの1年先輩の辰野さんが専務をする大阪の商社、(株)辰野が地下ショッピングモールを経営する新疆・ウイグル自治区を視察。日に3回も飛行機に乗る苦勞を思ったか、香り高い白酒と、雨、ウイグル美人が出迎えてくれる。区都ウラムチは250万の人口を誇り、石油、石炭、金属などの地下資源が豊富。発展を象徴するかの如く高層ビルが聳える。が、雨は珍しい。不足する水は隣国ロシアから買う。第二の都市トルファンへ。砂漠のオアシスで人口20万、中国の葡萄の60%を産し、干し葡萄が名物。長大な地下水路カレイズで、天山山脈の雪融けの伏流水を引き灌漑する。

ウラムチからトルファンは西遊記とシルクロードの世界だ。夏の天山山脈は山頂の氷河をのぞけば禿山だ。麓には緑の平原が広がり、羊や牛が草を食み、ウイグル族がゲルの天幕に住み遊牧する。中国の死海、塩湖が見える。山を越えると賽の河原だ。見渡す限り、遙か遠くまで一木一草生えず、石ころだらけの不毛の地に風だけが、ビュービュー吹く。

食べる物もなく、飲む水もなく、三蔵法師が生きて越えたのは奇跡だったろう石野原を、車で数時間。高速道路が貫く。もう一度峠を越えると細い川が流れ出し、河原の幅が広がると突然緑のオアシスが開ける。トルファンだ。

世界遺産の砦跡の入り口で駱駝タクシーを降りると、“私はMa r i k o！”と叫ぶ声がある。妹の真理子か？初恋のマリちゃんか？駒場共闘のマドンナか？ドキッとさせる。物売りの少女だ。日本人がふざけて教えてほしい。三つで千円！と民族帽を手にバスまで追いかけて来る。その先は火焰山。真っ赤な砂礫の山が無限に続く。三蔵法師も空飛ぶ絨毯か、タケコプターでもと思ったか？中国と日本の時差は1時間。ホテルには堂々と新疆時間の時計。中国標準時の北京時間と2時間差。東京＝北京より、北京＝ウイグルが遠い。ごったがえす夜のマーケットでケバブをつまみ、ビールを飲む。ソラ豆売りの少女にポラロイドを撮ってやる。名前は？紙に書いて！と差し出すと、文字は書けない、学校には行かないと、悲しく首を振る。悪いことをした。ソラ豆をつまみ昼のMa r i k oを思い出す。帽子を買ってやれば良かった。昼は観光地で土産物、夜は市場。学校に行けない筈だ。

新疆は東トルキスタン独立運動をテーマにした、船戸与一「流砂の塔」(新潮文庫)の舞台だ。区長、市長はウイグル人だがお飾りで、漢人の副区長、副市長が実権を握り、共産党の書記は漢人だ。大学入試も少数民族優先で下駄をはかせるが、生活が苦しければ小学校にも行けない。元々トルコ系のウイグル人は遊牧民で、草を求める羊を追って自由に生きて来たのに、柵なんか作って土地を囲い耕作する。かつて旧ソ連の各共和国と自由に行き来できたのに、国境管理を厳しくされ遊牧もままならず、生活が基礎から脅かされる。石油などの地下資源を目当てに漢人の企業家から失業者まで出稼ぎに来て、資源を奪い取ろうとする。ウイグル人は皆漢民族を憎んでいる。新疆が長い初老の日本人が語る。地下組織東トルキスタン独立連盟が結成され、ウルムチ、トルファン、カシュガルで爆弾が炸裂する。98年1月1日にオープンした全長139m、幅24mの一の字形の地下街。中央通路の両側に内外の最新ファッションを売る32の直営店舗を展開し、初期投資10億円で年間売り上げ10億円。二期工事完成後はT字型で3倍の規模になる。一番怖いのは爆弾だ。幸いこのところ爆弾テロは聞かない。豪華な石造り10階建てのウルムチ市庁舎の最上階で市長と面会する。男女の副市長が控える。🐟も茶を啜る。Ma r i k oは、ソラ豆売りの少女は、今、この時、どうしているのだろうか？

◎連続研究会◆2007年問題への視座～団塊世代は何をなすべきか！◆

第2回「年金生活、年金財政の展望 一団塊世代はもっと働こう！」

講師：千保 喜久夫・財団法人シニアプラン開発機構主席研究員

当初、9月第一週に予定していましたが、選挙に合わせ日程を繰り下げました。選挙疲れの癒やしを兼ねて、研究会にご参集いただけたら幸いです。今回は、団塊の世代のもう一働きが、いかにこの社会にとって重要か、我々の年金生活や年金財政の展望を踏まえ解説いただき、一緒に考えたいと思います。55歳定年の時代もありましたし、正直、もう働きたくないというのが、本企画を立てた当人の本音ですが・・・。

講師プロフィール：1972年一橋大卒・日本長期信用銀行入行。著書に金融界（共著・教育社）金融先物・オプション時代の幕開け（共著・有斐閣）等、主要論文に「年金保険の改正試案」

日 時：9月15日（木） 18:00 開場 18:30 開始

場 所 : 学士会館(306) (千代田区神田錦町 3-28 TEL 03-3292-5931)
参加費 : 会員 2000 円 一般 3000 円 (軽食付き) 終了後懇親会 (会費 3000 円位)
連絡・申し込み: 事務局(若山 w-1942@ph.highway.ne.jp、fax03-5228-1715、TEL03-5228-4960、
干場 Email: tfh-hoshiba@blue.ocn.ne.jp Fax03-5689-8192、TEL03-5689-8182)

◎「ばしふいっくびいなす」、「にっぽん丸」能代入港

日本最大級の豪華客船「ばしふいっくびいなす」(日本クルーズ客船)が、日本一周・韓国探訪クルーズ航海中の5月5日、能代港に入港。港では、能代べらぼう太鼓が歓迎の演奏を披露。能代の特産品やきりたんぼ鍋が振舞われました。乗船客の中には白神山地や十和田湖などへのオプショナルツアーに出かけた人、能代の風の松原、桶樽の作業風景、檜山などを巡る人もいました。さらに大きい「にっぽん丸」(商船三井)が6月7日に入り、歓迎セレモニーの後、乗客は市内観光や十二湖へ出かけました。

豪華客船が能代に寄港するなんて思いもしませんでした。白神山地の世界遺産効果でしょうか？これから、能代港に寄港する豪華客船が増えることを期待したいところです。地元では更に大きな豪華客船「飛鳥」(日本郵船)の寄港を要望しています。「能代大使」を拝命している🐟としては、地元の皆さんと一緒に日本郵船の宮原耕治社長(S40年三鷹寮入寮)にお願いに上がりたいと思います。宮原先輩、落第した中国語クラスで同級生の大槻哲史君共々、宜しく願いいたします。

◎平成17年度能代高校東京同窓会総会のご案内

7月末、住友不動産の代表権も持つことになった小野寺研一専務の計らいで、西新宿の住友三角ビル49階の「どんと」で行われた、能代高校新制17期の東京同期会は、摩天楼から遙か下界を見下ろし、そろそろ第二の人生を真剣に考えなければと、大いに盛り上がりました。店のスタッフには気を使っていたいただき、飲み放題の設定で大幅ディスカウントしていただいた上に、日本酒は白鶴の常温だけというところ、いつの間にか八海山千寿の冷酒を皆で酌み交わしていました。

4期?下で不動産業を営む菅原渉君も是非小野寺専務と一献交わしたいと、飛び入り参加。総勢12名。住所が把握できているのが60人弱なので、出席率はいいいのですが、行方不明者の捜索にもっと力をいれなければと思っています。

下記要領で能代高校東京同窓会が行われます。仲間が集まるのが分かっている同期会と違って、同窓会は知っている人がいないとつまらないことがあります。仲間を誘って参加すれば鬼に金棒です。お誘いの上、奮ってご参加ください。

【日時】平成17年10月15日(土)、受付15:00~

◇ 講演会 16:00~17:00

講師:菅原 貞敬氏(27期)秋田国体強化アドバイザー

◇ 総会 17:10~18:00 ◇ 懇親会 18:00~20:30

【場所】アルカディア市ヶ谷(私学会館、JR市ヶ谷駅下車、地下鉄新宿線・有楽町線)

TEL. 03-3261-9921、〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25

【懇親会会費】男性 7,000円 女性 5,000円 【年会費】 3,000円

【申込み連絡先】畠TEL045-227-7550、FAX. 045-227-7570

Email BRB06442@nifty.ne.jp、又は干場まで

◎来る者は拒まず、去る者は追わず

40の手習いでサラリーマン稼業を始めた時の同僚で、高橋カーテンウオールでも一緒に仕事をした大学の後輩の原島和雄君が🐟事務所に現れる。スポンサーを見つけ、農学部林産学科で同期だった安藤東大教授と組み、エコビジネスを起業したという。廃木材や間伐材を超微粉化し、廃プラスチック等と混ぜ、建材や運搬用のパレットなどに再生する、その延長でゴミ発電やバイオマス発電、システムの販売も手掛けるので、売り込みを手伝えとのこと。毎月のコンサルタント料、成功報酬も支払ってくれるという。“来る者は拒まず、去る者は追わず、連帯を求めて孤立を恐れず”の全共闘精神？が🐟のモットーだ、異議はない。又、二人三脚で走り回るようになります。宜しくお願いします。

◎《宮沢賢治をめぐる》いま問題となる二、三の事柄・三鷹クラブ第62回定例懇談会

講師：天沢退二郎明治学院大学名誉教授（昭和31年入寮）

天沢さんと知り合ってから四半世紀どころかもう35年を超えるが、いまだに三鷹寮の先輩という感覚は希薄である。編集の仕事に携ってきたぼくにとって、天沢退二郎さんは「詩人」としてとても大きな存在だからである。ところでぼく自身は1962年春からまるまる2年間、三鷹寮にお世話になり、（なぜか寮の名簿では鬼籍に入ったことになっていますが、まだ現世に滞在中です）卒業してから、すでに著名な詩人だった天沢さんに、編集者としてお目にかかった。

1960年代後半、時代が大きく揺れ動いていたとき、天沢さんは詩を発表するだけでなく、「書くこと」自体に根本的な問題を投げかけたり、文芸だけでなく、マンガや映画、演劇といったジャンルであらあらしく台頭してきた、新しい才能を浮かび上がらせるなどして、注目をあつめていた。さらに天沢さんは、大変重要な仕事をしていて、一時代を画しながら、その名声の中に埋もれがちだった作家の作品を、新しい目でみなおし、再評価するという仕事である。ぼく自身が編集者として取り組んだ、泉鏡花やルイス・キャロルの再評価も、天沢さんのエッセイや天沢さんから直接あおられたのが、きっかけとなった。

天沢さんのこのような仕事のなかでも断然際立っていたのが、宮沢賢治の読み直しである。賢治の元々の原稿や、反古とされてきた下書きなどにまでさかのぼって、書かれた時期や書きぐせなど、考えられるあらゆる角度から再検討し、決定稿を提示するという仕事だった。これは筑摩書房発行の「宮沢賢治全集」として結実し、文字どおりの決定版（定本）として機能するようになる。

この仕事のために筑摩書房の一室に閉じこもっていた天沢さんとお会いしたこともあるが、宮沢賢治という偉大な作家の全貌を明らかにするという、使命感にも燃えていたのだろうが、大きな謎に挑み、次々とその謎を解いてゆく知的快感をたっぷり味わっていたにちがいない。その表情はいきいきとしていて、なんだかうらやましく思ったのを、今もありありと思い出す。多才な天沢さんは今も詩の新作を発表したり、歌手・中島みゆきを論じたりと、とても忙しそうで、三鷹寮の話をしたるははまだまだ先になりそうである。

（昭和37年入寮桑原茂夫記）

日時：9月28日（水） 18時30分～21時

場所：学生会館本館320号室（千代田区神田錦町3-28 Tel 03-3292-5931）

会費：5000円（会場費、夕食代・ビール代、講師料、通信費など込み）

定員：100名（先着順：定員を超えない限り特に連絡は致しません）

申込先：平賀・干場 Fax03-5689-8192 Tel03-5689-8182 有限会社ティエフネットワーク
Email: tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

◎東大三鷹寮 41・42・43 年入寮の皆さん！ 第四回？ 合同同期会のご案内

青春時代に寮で釜の飯を同じくした皆さん！ 今年も合同の同期会を行います。団塊世代の大量定年退職が技能継承や年金問題、シニア市場の拡大・取り込みの 07 年問題として論じられ、リストラや病気、年金も気になるこの頃。同期の人材は選挙で頑張る森元恒雄（41 年入寮）、舛添要一（42 年入寮）両参議院議員、辻恵（42 年入寮）前衆議院議員ばかりではありません。文Ⅰの弁護士から理Ⅲの

医師まで、総合大学の寮故に、人材豊富。素敵なソリューションネットワークに加わり、秋の夜長を楽しく過ごしませんか？

日時 10月21日（金）pm6:30～

場所 ホテル銀座ラフィナート（右図参照）

TEL03-3561-0777 <http://WWW.raffinato.jp>

東京都中央区銀座 1-26-2

会費 8 千円（3 年次分名簿作成、通信費込）

呼掛人 勝部日出男（43 年）Tel03-3561-8210


連絡先 宮脇良秋（42 年）Tel03-3448-7031

干場革治（41 年）Tel03-5689-8182

E-Mail: tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp




◎山の森を復元し、海の森を再生させよう！・・・10.9 白神植樹ボランティア募集！

の故郷、秋田の八森町で、10月9日（日）に、今人気の白神山地で、ブナの苗を植樹するボランティアを募っています。8日（土）にはオプションツアーも予定しています。綺麗な紅葉と日本海の幸、地酒の白瀑（シラタキ・・・新潟の水のようなとは違う！）があなたを待っています！詳しくはNPO法人白神ネイチャー協会へ！

TEL/FAX : 0185-70-4211 URL <http://www.shirakami.or.jp/~asna/shirakami>

◎三鷹クラブホームページ復活・再生！・・・<http://www.ne.jp/asahi/mitaka/club/>

朝日新聞のニューメディア事業部でデジタルデバインドを克服、この度、総合研究所に移って多少の時間の余裕を獲得した中村英君（42 年入寮）が、行方不明だった三鷹クラブのホームページを探し出し、新しい棲家（サーバー）も見つけてくれました。本通信の前身の「水族館通信」創刊号から 10 号までも搭載されていました（11 号以降「アマダイ通信」と改題）ので、興味ある方は覗き見して下さい。川崎重工で環境・省エネ関係の新技术を開発する堤香津雄君（50 年入寮）が送ってくれた風呂場なども含めた旧寮の写真、日立の小林仁朗さん（54 年入寮）が提供してくれた入寮時の集合写真、古い入寮の葉、寮誌「雑木林」などの資料も新しく搭載しています。古い資料をお持ちの寮友は是非  事務所までお送り下さい。郵送でも、デジタル化してメールでも結構です。追々、国際宿舎になってからの資料も搭載、グローバルネットの要にしたいと思っておりますが、寮生の自治組織が崩壊？ コミュニケーションが図れない困った状況になっております。再見！

10.4 アマダイ通信 50号記念！ 加藤登紀子トーク&ディナーショー

各位

お蔭様でアマダイ通信も50号の節目を数え、(有)ティエフネットワークもどうにか開業7年を迎えることができました。50歳で前職の高橋カーテンウォールを飛び出し、エコビジネスを起業した際、会社の宣伝にと、今回同様、会社設立パーティーを開催。用意した150人分のお土産が足りなくなるくらいの方々に、出発を祝っていただきました。その時、三鷹寮の三谷先輩が、最初にこんなパーティーなんかすると大体潰れるんだ！と挨拶してくれたのですが、半年ほどでその通りになり、その後、大分苦労しました。

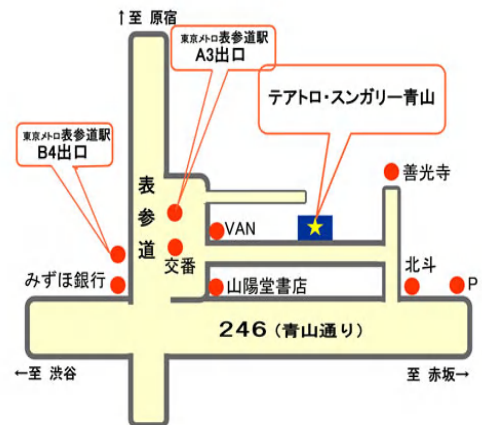
今回はこの間の皆様の応援に感謝、歌手の加藤登紀子さんに出演していただき、10月4日(火)夕方6時より、表参道のロシアレストラン「テアトロ・スングリー青山」で、記念の「加藤登紀子トーク&ディナーショー」を開催致します。

6時より、ウェルカムドリンクとしてロシアンティー、ワインを片手に、読者の皆様に出会いを楽しんでいただき、6時半より、定評あるスングリーの美味しいロシア料理をウオッカと一緒に堪能していただきます。

トークショーではNPO法人「緑の地球ネットワーク」の高見事務局長(アマダイの前の東大三鷹寮委員長)とオトキさん、この度、次官級の環境省地球環境審議官に昇任した小島敏郎君(アマダイの後の寮委員長)に、「地球を救う」という題で、地球環境問題について語っていただきます。その後、オトキさんにヒット曲、最新曲、リクエスト曲を歌ってもらい、最後は皆で知床旅情を大合唱、楽しい一夜としたいと思います。奮ってご参加下さい！

記

日時 10月4日(火) 6時開場 6時半開会、会食
 場所 テアトロ・スングリー青山
 港区北青山3-5-17青山フアッションカレッジ B1
 tel: 03-3475-6648 (右図参照)
 会費 男性1万3千円、女性1万2千円
 「僕らの村に杏が実った」高見邦雄著 贈呈
 (当日会場持参、領収書発行致します)
 問合せ、申込みはアマダイ事務所まで



「アマダイ通信 50号記念！加藤登紀子トーク&ディナーショー」に参加します

氏名(男 女) 所属
 連絡先(電話、メール)

氏名(男 女) 所属
 連絡先(電話、メール)